



学習院大学史料館 ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.32

発行日 ● 平成28年(2016)10月1日

もくじ

ごあいさつ	1
うつほ物語 絵入版本、桜地流水文蒔絵双六盤	2
平家公達草紙	3
源氏物語 須磨・松風図屏風	4
歌川芳幾画 今様擬源氏	6
三十六歌仙額	7
山東京伝画 桜下遊女図	8
文正草子絵巻、銀製雑道具	9
住吉物語貼交屏風	10
貝桶形流水菊花葵文ボンボニエール	12



小野小町図
(内膳司濱島家文書「三十六歌仙絵」上巻より)

ごあいさつ

学習院大学史料館では平成28年10月1日～12月10日に「君恋ふるころ—恋に落ちる日本美術—」というテーマで展覧会を、そしてその関連講座として、学習院大学文学部の佐野みどり教授による第81回学習院大学史料館講座「王朝物語と絵画」を10月8日(土)に開催致します。本ミュージアムレターをご覧頂ければ、多くの日本美術が「恋」をテーマとして、絵画や工芸品にそのストーリーが展開されていることがわかりになると思います。また、当展覧会では、平成27年度に当館所蔵となった「源氏物語 須磨・松風図屏風」や、新たに寄託されることとなった勸修寺所蔵「三十六歌仙額」を初めて公開いたします。その他、史料館展示室では、多くのゆかりのものが展示され、関連講座では興味深いお話があり、ご参加の皆様方に楽しんで頂けることと思います。皆様にはこれらを通じて、史料館員達の熱い思いや活動を身近に感じて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、この展覧会および史料館講座開催にご尽力、ご協力いただきました関係各位に心よりお礼を申し上げます。

(館長 上田隆穂)

君恋ふるころ

—恋におちる日本美術—

当館は昭和50年(1975)の開館以来、古文書や華族関係の資料を中心に幅広いジャンルの資料を収蔵するに至っています。なかでも、日本の美術品に関しては、絵画や工芸品をはじめとして年々その数を増やしつつあります。

そこでこの度、当館では日本美術をメインとした展覧会を開催することになりました。今回は特に、「恋」というテーマを定め、絵画や工芸品に表された恋の物語を紹介する展覧会となっております。いにしえより、先人たちは物語や和歌において、必ずと言ってよいほど恋を語っています。情熱的な恋、悲しい恋、待ちわびる恋…恋には色々な形があり、それは現代の我々にも十分に共感出来るものでしょう。本展では、そうした先人たちの「恋」をテーマに、学習院が所蔵する絵巻や屏風、浮世絵、奈良絵本といった様々な日本の美術品を展示いたします。『源氏物語』や『住吉物語』など日本を代表する古典文学の絵画から、結婚を祝したボンボニエールまで、幅広い年代・種類の作品を取り揃えています。

「君恋ふるころ」とは、和歌によく詠まれた言葉で「あなたを愛しく想う気持ち」という意味です。華やかな日本人の恋と美術をお楽しみ下さい。

(助教 柳澤恵理子)